

人物の善しあしを見極め、どう付き合っていくのか。名だたる偉人たちが残した教訓にも、全く正反対のものも存在する。果たしてどちらを信ずるべきか悩ましい▼中国唐の太宗は帝王の資質をこう説いた。「良匠は材を棄つることなく、明君は人を棄つることなし」。どんな資材や人材も安易に手放してはいけない▼つまり、大工には材料が、君主には人材が不可欠である。優れた主人なら、どんなものにも取りえがあり、工夫次第で活用できる場面があることを知っていると言つ▼一方で道徳を重んじた孔子は、人間の可能性を認めながら、より厳しい見方をする。昼間から寝ている弟子を見てひと言。

越山若水

2018.4.24

「朽ちたる木では彫刻にならぬ。腐植土を積んだ垣根では上塗りはできぬ」▼世の中には成長を期待して教育しても、矯正できないどうしようもない悪徳人がいる。そこに近づけば腐食作用でわが身が危つく、関わりを避けたい方が賢明だと言いつ聞かす▼米国の首脳会談の前に、北朝鮮の金正恩委員長が核実験とミサイル発射の中止を表明した。融和路線をさらに鮮明にし、平和への期待感も高まる▼しかし「非核化」の行程は段階的なよつで、達成のたびに経済的見返りを手にする腹づもりらしい。人を見る目でより適正なのは、前者太宗か、後者孔子か。冷静に判断したいが、ただ裏切りの過去は消えない。